

## 生き方を探るⅡ

今 村 敦 司 ・ 仲 田 恵 子  
 大 林 直 美 ・ 野 崎 敦 史  
 近 藤 和 雅 ・ 佐 藤 俊 樹  
 斉 藤 眞 子

【抄録】「生き方を探る」という大テーマのもと、本校での学習の集大成として高校3年生が取り組んだ総合人間科。様々な場で自分の興味関心のあることを選び追究してきた生徒が、自分の将来について考える機会を有効に生かして進路選択を行っている場がこの総合人間科の授業にあることがあらためて明らかになった。

【キーワード】 選択 生き方

### 1. 学習計画

年間計画は次の通り

(前期)

回	日	授業内容(予定)	使用教室
1	4/11	第6限：概要説明・アンケート	第1総合
2	4/21	進路希望系統別グループ発足	HR・社会書道・化学(計6部屋)
3	4/28	フィールドワーク先検討①	HR・社会書道・化学(計6部屋)
4	5/19	フィールドワーク先検討②	HR・社会書道・化学(計6部屋)
5	5/26	フィールドワーク先発表会	HR・社会書道・化学(計6部屋)
6	6/2	フィールドワーク	
7	6/9	フィールドワーク先へのお礼状発送 フィールドワーク報告会準備	HR・社会書道・化学(計6部屋)
8	6/30	フィールドワーク報告会：グループ内	HR・社会書道・化学(計6部屋)
9	7/7	小論文ガイダンス	第1総合
10	9/1	スピーチ原稿・集録原稿執筆①	HR・社会書道・化学(計6部屋)

(後期)

11	10/13	スピーチ原稿・集録原稿執筆②	HR・社会書道・化学(計6部屋)
12	10/27	グループ内スピーチ	HR・社会書道・化学(計6部屋)
13	11/24	学年全体でのスピーチ	第1総合
14	12/8	研究集録原稿完成	HR・社会書道・化学(計6部屋)
15	1/12	まとめ	第1総合

実施会場は学年および研究部との調整により行う。(各教室、社会科教室、生物室、書道室、図書館、コンピューター室) 課題の内容の濃淡により適宜、LTなどの時間を利用した。

### 2 学年目標、ねらい、伸ばしたい力など

生徒が、自己形成の過程を振り返り、現在の興味関心を確認することにより、主体的に生き方を選択することができる力を育てる。また、進路問題を個人の問題とは

せず、系統別グループ内で検討することで、自分の興味関心のある分野について多角的に検討するチャンスを提供し、実りある進路選択を行うことができようにした。具体的には、学外でのフィールドワークによって自分の進路決定に関わる人から直接学んだり、スピーチや研究

集録の形式で自らの意識を発表することで、自分の将来に対する認識を深め、総合人間科の目標である「自分の人生を自覚的に選択する力を育てる」ことの達成をはかる。

### 3. 活動内容

前期：フィールドワークとその報告会  
後期：スピーチ（グループ内／全体）、研究集録作成

### 4. 評価基準と方法

方法

- (1)教員による評価（FW等の取り組み、発表、集録）
- (2)生徒による自己評価（アンケート、発表や一年間の振り返り）
- (3)友達による評価（話し合い、発表）

### 6. 高校3年グループ別フィールドワーク訪問先一覧

人文系統 Team Oliver 担当：仲田 恵子

組	番	訪問先
A	2	南山大学 アジア学科
A	8	金城学院大学 文学部
A	17	JICA中部
A	32	名古屋大学 文学部
A	38	南山大学 外国語学部
B	5	COZY ダンススタジオ ダンス教師
B	7	東海テレビ 広報/アナウンス部・アナウンサー
B	11	南山大学 スペイン・ラテンアメリカ
B	19	南山大学 人類文化学科
B	28	南山大学 短期大学部
B	34	名古屋大学 文学部
C	3	名古屋大学 文学部
C	8	名古屋市立大学 人文社会学部
C	13	名古屋大学 文学部
C	17	名古屋市立大学 人文社会学部
C	20	名古屋市立大学 人文社会学部
C	28	愛知県図書館 総務課企画グループ

理工（地情）・芸術・歴史系統 Leftovers 担当：野邨 敦史

組	番	訪問先
A	1	株式会社中京テレビ 企画部
A	3	名古屋市立科学館 学芸員
A	21	トライデントコンピューター専門学校 入学事務局
A	24	名古屋大学 大学院情報科学研究科
A	31	愛知県立芸術大学 芸術学部彫刻専攻
B	10	Flapp Design Studio

基準

- ・自分自身の進路を、今まで学んできた過程を踏まえて説明することができる。

### 5. 系統性

前年度とのつながり

- ・沖縄での平和学習が進路意識の形成に寄与した生徒がいれば考慮する。

「持続可能な開発のための教育（ESD）」とのかわり

- ・フィールドワークでインタビューを行い、他者の生き方から参考となる考え方を学ぶ。また、スピーチや原稿執筆を行うことで、言語運用能力を高める。

B	14	椋山女学園大学 教育学部
B	39	愛知淑徳大学メディアプロデュース学部メディアプロデュース科
C	12	熊沢医院
C	16	愛知学院大学 文学部歴史学科
C	21	名古屋大学大学院 情報科学研究科
C	22	愛知県立芸術大学 芸術学部彫刻専攻
C	24	愛知学院大学 文学部歴史学科イスラム圏史コース
C	32	名古屋工業大学 都市社会学科
C	35	株式会社中京テレビ 企画部
C	37	兵庫県松濤軒

理工(数物生化)系統 ぼくらの最終定理 担当：近藤 和雅

組	番	訪 問 先
A	12	名古屋大学 エコトピア科学研究所
A	15	名古屋大学 農学部
A	19	名古屋大学 工学研究科
A	22	名古屋大学 工学部
A	25	名古屋大学 医学部
A	26	名古屋工業大学 工学部
A	37	名古屋工業大学 工学部機械工学科
B	1	名古屋工業大学 工学部
B	6	名古屋大学 工学研究科
B	16	名古屋大学 多元数理科学研究科
B	22	三重大学 工学部
B	30	名古屋大学 工学部
B	33	名城大学 理工学部
B	37	名城大学 理工学部
C	18	株式会社オーディオテクニカ 名古屋営業所
C	25	名古屋工業大学 工学部
C	38	名古屋大学 多元数理科学研究科

医歯薬保育体就系統 TEAM WHITE 担当：大林 直美

組	番	訪 問 先
A	4	名古屋市立大学 大学院薬学研究科
A	6	名古屋工業大学 未来材料創成工学専攻
A	29	名古屋市立大学病院 看護科
A	40	トライデントスポーツ医療看護専門学校
B	3	名古屋市立大学病院 消化器内科
B	8	協和発酵キリン(株)名古屋支店 広報担当
B	13	千種保健所 保健予防課
B	20	名古屋市役所市民経済局 文化振興室/観光推進室
B	21	共立総合病院
B	23	名古屋市立大学薬学部
B	25	中京大学 スポーツ科学部
B	32	共立総合病院

B	36	名古屋大学 医学部放射線技術専攻
C	6	名古屋市立大学病院 看護科
C	15	名古屋大学 農学部応用生命科学科
C	23	フジパン株式会社 マーケティング部
C	29	看板と広告の資料館 珙瑯看板研究所
C	33	港区東部いきいき支援センター/昭和保健所

## 農林水産・社会系統 農林水社(株) 担当：斉藤 真子

組	番	訪 問 先
A	7	愛知県農業総合試験所 作物研究グループ 総合研究員
A	9	岐阜大学 応用生物科学部
A	11	岐阜大学 応用生物科学部
A	14	フーズフォーギャラリー
A	27	名古屋大学 生命農学研究科
A	33	名古屋外国語大学 現代国際学部
A	36	岐阜大学 動物繁殖学研究所
A	39	愛知県警 鑑識課
B	15	名古屋大学 農学国際国際教育研究センター
B	17	名古屋大学 法学部
B	31	岐阜大学 応用生物科学部
C	2	電通名鉄コミュニケーションズ 総務部
C	11	名古屋大学 生命農学研究科
C	31	名城大学 農学部生物環境科学科 環境動物学研究所
C	34	名古屋大学 農学部
C	36	名古屋大学 農学部

## 社会科学系統 TSK49 担当：佐藤 俊樹

組	番	訪 問 先
A	5	名古屋大学 経済学部
A	10	名古屋大学 経済学部
A	16	明治製菓 名古屋支店
A	18	シャチハタ(株) 広報室
A	20	国際飢餓対策機構 愛知事務所
A	30	名古屋大学 経済学部
A	34	ふたご司法書士事務所
B	26	名古屋国際センター 交流協力課
C	1	京都大学 霊長類研究所
C	4	大韓民国領事館
C	5	名古屋大学 経済学部
C	7	名古屋地方検察庁 企画調査課
C	26	Wedding of Legend GLASTONIA
C	27	名古屋グランパス 事業部広報・運営G
C	30	名古屋市立大学 経済学部
C	39	名古屋大学 経済学部

心理・教育・教員系統 ふれあい 担当：今村 敦司

組	番	訪 問 先
A	13	名古屋市立笠東小学校
A	23	愛知教育大学 技術科
A	28	名古屋市立守山西中学校
A	35	名古屋市立東図書館
B	2	名古屋外国語大学英米語学科元教授（犬山図書館）
B	4	愛知教育大学 理科教育
B	9	名古屋大学 教育学部
B	12	愛知教育大学 数学教育
B	18	愛知教育大学 数学教育
B	24	名古屋大学 教育学部
B	29	名古屋市教育センター 総務課
B	35	愛知淑徳大学 心理学部
B	38	名古屋市立大学 人文社会学部人間科学科
C	9	愛知教育大学 社会科教育
C	10	名古屋外国語大学英米語学科元教授（犬山図書館）
C	14	名古屋大学 教育学部
C	19	愛知教育大学 教育学部音楽科

## 7. 今年度の総合人間科の学習内容

### (1)学習方法

個人研究を主として行う。同じ進路を希望する者同士、20人程度のグループを作り（進路系統別グループ）、その中で発表したり、情報交換をしたりして、自らの考えを深め、主体的に自分の進路を選択する。3年生の活動の柱は「フィールドワーク」「スピーチ」「卒業論文」である。

### (2)実践内容

#### ①進路別グループ作成（5月）

#### ②フィールドワーク（6月）

訪問先は、自分の進学先や関係する学部学科の研究室、あるいは興味ある仕事に従事されている方とした。電話によるアポイント取り、依頼状・質問状・御礼状書きを行った。

#### ③オープンキャンパスなど（8月）

夏休み中に各自で希望する学校を訪問したり、進路に関する情報を集めた。また、遠隔地へのフィールドワークを行う者もいた。

#### ④3分間スピーチ（11月）

内容は、自分史的なものか、将来の展望とした。まず、進路系統別グループでの発表をし、その中から選ばれた代表者が学年全体の場でスピーチを行った。

自分のスピーチの内容や水準について、それぞれの生徒が手応えを感じ、達成感を得たようである。また代表生徒の熱のこもったスピーチを聞くことが大きな

刺激となった。本音で夢を語るができる、学び合える集団作りが達成されたと感じる事ができた。

#### ⑤卒業論文（12月）

題材は3分間スピーチの内容を膨らませたものとした。活動への取り組みが甘かった生徒も、総合人間科の活動に力を入れて取り組んでいた他の生徒のスピーチに触発され、最後の活動である卒業論文には真面目に取り組む姿勢が生まれた。ほぼ全員が期間までに原稿を提出することができた。

## 8. 成果と課題

ここでは、「自分や社会に対する考え方」の変化の様子を、3学年末に行った「進路に関するアンケート」の結果から見てみたい。利用したアンケートは総合人間科創設の頃から行われ、原稿が担当者に伝わっているものである。

以下特に(6)・(7)について、内容の分析と傾向をまとめた。

(6)進路選択にあたり、総合人間科の活動で役立ったものがあれば書いて下さい。3年生の活動に限りません。何年次のどんな活動なのか、具体的に書いて下さい。

集計の結果は以下の通りである。( )内は回答の数である。

・高3「生き方を探る」(55)

「すべてのFWでの経験。アポ取り、依頼状を送るなど。マナーも実際に体験してこそ身につくと思

- うし、自分の知識を身につけるのにも役だった。」
- ・フィールドワーク (50)
  - ・アポ取りと実施 (5)
  - ・スピーチ (5)
  - ・卒業論文 (4)・・・「自分を見つめ、自信を持てた」
  - ・高2「国際理解と平和」(4)  
・・・「沖縄はものの見方が変わる」
  - ・高1「生命と環境」(20)
  - ・中3「国際理解と平和」(2)
  - ・中2「生命と環境」(3)
  - ・中1「生き方を探る」(10)

「進路選択にあたり」という注意書きのためか、高3の活動を挙げる回答が最も多くなった。中でも役立ったと感じられているのはフィールドワークだ。高3のすべての活動は生徒の「主体的な進路選択」に有効であると思われる。

総合人間科のどの学年での取り組みも、総合的に進路選択に役立っていると感じられているようだ。中学からの入学者については、中学入学時からの総合人間科も進路選択に影響していると考えている。中1で将来の夢を描くことが高3の進路選択の動機付けにつながっている。また、中3・高2で「平和」について学んだことも、自分の進路選択に影響を与えているという回答があった。進路とは一見関係がなさそうであるが、社会に出て一人の人間としての自分の意見を持つ上で参考になるものがあつたのだろう。

他にも以下のような回答があつた。

- ・人と話しを聞いたり話し合ったりすること(2)  
「他者の考えと自己の考えの差がなぜ生じるのかを学べた」
- ・プレゼン(2)  
「『発表する力』があつたと思う。それはどの学年の活動においても同じ。」
- 〈その他〉
  - ・視野を広げる。意識を集中させる
  - ・自分で分析する、まとめる力
  - ・アポ取りをする抵抗がなくなった。

(7)総合人間科についてメッセージがあれば書いて下さい。

総合人間科の肯定的に捉える意見が多かつたが、アドバイスを述べたものの例を挙げておく。

- ・「あまり堅く捉えなくていい」ということを伝えなければ取り組みにくい。
- ・テーマ自由って、すばらしいと思う。
- ・職業体験がよかつた。

- ・これからも続けて下さい。授業が全部総人みたいならしいのにも思ったこともありました。
- ・考える力などが一番伸びる科目。
- ・大学に入って、どのように役立つか楽しみ。
- ・自分史を書くことで自分の進路や考えを整理することができた。

総合人間科の取り組みの有効性が最も認識できるのは高校3年生である。また、卒業後にはその学習の有用性をさらに実感できている感触を卒業生の話から得られている。その有用性を、現在学んでいる生徒にどのように伝え、モチベーションを上げるかということを考えていく必要がある。また、何の力がどの活動で得られ、有用性の認識に寄与しているのかといった、細かな分析をして、今後の活動の改善に役立てる研究も必要である。高校3年生の熱い感想を読むと、この学校は総合人間科で支えられていることを実感させられたし、さらによいものにしていく必要があると感じた。